

アナフィラキシー症状の判断基準・エピペン®の適応

<日本小児アレルギー学会のガイドライン>

エピペンが処方されている患者で、アナフィラキシー・ショックを疑う場合、下記の症状が一つでもあれば使用すべきである。

消化器の症状	・ 繰り返し吐きつづける ・ 持続する強い（がまんできない）おなかの痛み
呼吸器の症状	・ のどや胸が締め付けられる ・ 声がかすれる ・ 犬が吠えるような咳 ・ 持続する強い咳き込み ・ ゼーゼーする呼吸 ・ 息がしにくい
全身の症状	・ 唇や爪が青白い ・ 脈を触れにくい ・ 意識がもうろうとしている ・ ぐったりしている ・ 尿や便を漏らす

※当学会としてエピペン®の適応の患者さん・保護者の方への説明、今後作成される保育所（園）・幼稚園・学校などのアレルギー、アナフィラキシー対応のガイドライン、マニュアルは、すべてこれに準拠することを基本とします。

<判断の基本となるヒヤリング>

- ① 原因 ~ 『どうしたの?』、『何があったの?』
『虫に刺されたの?』
- ② 訴え ~ 『どこが苦しいの?』、『痛いのか?』
『何か云いたいの?』
- ③ 最終飲食 ~ 『今、何を食べたの?』、『何か飲んだの?』
『食べたか、飲んだのは、何時頃?』
- ④ 病歴 ~ 『以前に同じようなことがあったの?』 『喘息など病気はあるの?』
- ⑤ アレルギー ~ 『アレルギーはあるの?』、『どんなアレルギーなの?』
- ⑥ 薬 ~ 『エピペンは持っているの?』 『お医者さんからもらった薬はあるの?』



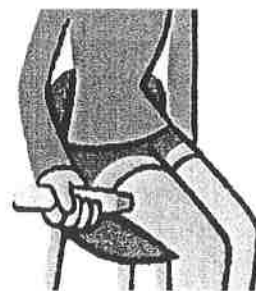
エピペン®とAED 使用における違い

エピペン®の使用原則(アドレナリン自己注射器)

- ♥ 処方された本人のみに使用する。
- ♥ 医師から本人に伝えられている指示を守る。
(未成年の場合、医師から説明を受けている保護者が使用する)
- ♥ 学校(幼稚園等含)の教職員で、保護者から使用にあたって信託を受けている場合、本人に代わって使用する。

● 誰(相手)にでも使えるものではありません。

※例えアナフィラキシー・ショックの症状が出ていても、当の本人が医師からエピペン使用の処方を受けていなければ、処方されている他人のエピペンを使用できません。



相
違

AED(自動体外式除細動器)

- ♥ 反応が無く、普段通りの呼吸が無ければ、心肺蘇生法と併用して使用する。
- ♥ 第一次救命手当ての範囲内で、一般市民であっても誰もが使用することができます。
- ★ 誰でも、誰(相手)にでも、何時でも、何処でも使用できる。



エピペン®使用時の手順と留意点

★アナフィラキシーの判断
 ・本人へのヒヤリング
 ・症状は10ページ参照

① 救急車の要請
 周囲の者が事前に
 119番に緊急通報

② エピペン®使用
 <ガイドブック参照>
 ・本人・保護者
 ・委託を受けた先生
 ・第三者（緊急避難）

③ 注射部位をもむ
 約10秒ちかく部位
 をもむ。
 ・本人ができない場
 合はゴム手袋を装着
 して救助者が行う。

↑血液感染のリスクを避ける

④ 時間を記録
 注射を打った時
 間を記録する。

↑注射器にマジックペンで
 記入する。必ず医師に渡す。

♥対応時の検証

・今回の対応につ
 いて、良かった点・改善
 点・反省点等を検証し
 て、次に備える。

⑩ 救命手当

救急隊員が来る前に、
 万一、反応と呼吸がな
 くなれば、直ちに心肺
 蘇生法を開始する。

⑨ 必要事項の伝達

手当ての内容記録、
 注射器等を渡す。

⑧ 救急車の誘導

サイレンが聞こえたら
 校門へ迎えに出る。

⑦ 安全の配慮

周囲の子供達にも
 気を配る。心のケア

↑手当の現場から
 安全な所へ移動させる

血圧が
 低下

呼吸
 困難

意識が
 ない

⑤ 安静を保つ
 楽な姿勢を保ち、
 立たせたり、歩か
 せたりしない。

⑥ 容態を観察&記録

ショックの発症時から
 容態、変化などを時系
 列的に記録する。

<緊急対応マニュアルの準備>

校内でアナフィラキシー・ショックも含め重篤な傷病者などが発生した
 場合の緊急合図を決めておき、その合図によって、一人でも多くの
 協力者を確保するためのシステムづくりが重要です。